

41010

教科書文庫

4
760
41-1909
25980 04949

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

C
Y
M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

767類
61號

最新
天谷秀編
中等唱歌集



教科
41-
25980



3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

教科書文庫

4

760

41-1909

2598004949

濟定檢省部文

日五月三年二十四治明



最新中等唱歌集

天谷秀編

769類
61号

縣第
音
和
部冊數

十字屋樂器店發行

第4949號



74

最新
中等唱歌集

緒言

一近世、科學的教法、大に發達し、公私設立の諸學校、師範學校、中學校及高等女學校等、日に月に隆盛し、其程度ますます高まるに從ひ、屢々新教材を需むる者多きの觀あり、依て是に中學科の資に供せむか爲め、此の新選教材を編纂せるものなり。

一本書、收むる所の歌詞は、文學諸大家に請ひ、特に作咏せられたる者、作曲は數番の原曲を除く外、現今斯道に嘖々たる名家諸氏の作に係る者を集めたり。

一本書所載、歌曲の順序は、素と其難易に依れりと雖も、或は教授者に於て施用の手段として、任意に之を變更せらるゝも妨げなし。

明治四十一年五月

編者識

広島大学図書

2598004949



目次

第一	運動會歌	四
第二	海	六
第三	海國女子	八
第四	帝國海軍	一〇
第五	秋の散步	一二
第六	日光	一四
第七	音樂會	一六
第八	秋野	一八
第九	校友會閉會の歌	二〇
第一〇	曉の旅	二二
第一一	詠史	二四
第一二	月	二六
第一三	窓の小鳥	二八
第一四	建都	三〇
第一五	海水浴	三二

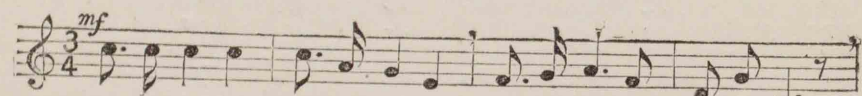
第一六	長良河の鵜飼	三四
第一七	古戰場	三六
第一八	芳野山	三八
第一九	薩摩守忠度	四〇
第二〇	神州男兒	四二
第二一	落機山吹雪	四四
第二二	山家の初冬	四六
第二三	惠の波	四八
第二四	樂聖	五〇
第二五	黃鳥	五二
第二六	春の歌	五四
第二七	端艇競漕	五六
第二八	初夏	五八
第二九	山居の美	六〇
第三〇	姫百合	六二

以上

運動會歌

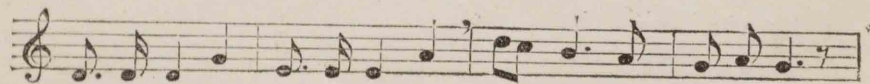
Allegrezza. ♩=120.

天谷 秀



一、ノドケキ ヤ マニハ サクラノ ハナモ

二、はれたる の べには かげるふ もえて



フクカゼ マチガホ チラホラ サツガ

ひかげに ちくさも ひらひら などを



ワレヲハ イキモノ タノシキ ハルチ

われらはいきもの うれしき けふを

五



ムダニヤ スギナム イザトモキタレ

ただにや くらさむ いざともきたれ

運動會歌

一、長閑き山には、さくらの花も。吹く風まらがほ、

ナラホラさわく。吾等は活物、たのしき春を。

空にやすぎなむ、イザ友きたれ。』

二、晴たる野へには、陽炎燃えて。日影にちくさも、

ヒラヒラをどる。吾等は活物、うれしき今日を。

徒にやくらさむ、イザ友きたれ。』

旗野 十一郎

四

海

Moderato. ♩ = 100.



一、二、三、四、

ナ ミ ナ ケ タ テ テ ク ロ ケ ム リ ヲ
 み わ た し ひ ろ く か ぎ リ な き あ い
 ヲ ミ ハ ヲ タ ケ キ ト キ モ ア リ イ さ
 か す の た から な お ほ 一 き み に



ツ マ キ シ タ ル フ ネ モ ア リ カ
 な う な ば ら は す さ の な の カ
 カ リ テ ス サ プ ワ リ モ ア リ ヲ
 さ げ ん も の と わ た つ み は み



タ ホ ニ マ ホ ニ タ カ ク ア ゲ カ
 み の し ら せ る く に 一 な れ ば カ
 タ ケ シ ト テ 一 モ ヲ ム ダ 一 ン ス ナ イ
 ち 一 な ひ ら き て ま ち 一 て あ リ ヤ

七



セ ナ ハ ラ ミ テ ヲ ク モ ア リ
 す の た か ミ を を さ め た リ
 カ リ タ カ リ ト モ ソ ル ナ ヲ
 ン マ す ら な よ う み た み よ

海

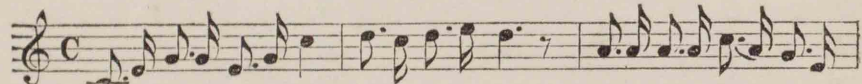
加部 嚴夫

六

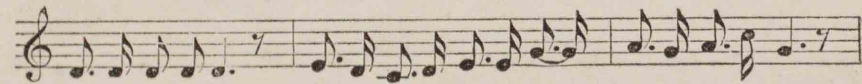
- 一、 波を蹴たて、
黒けむり。
渦巻わたる、
船もあり。
- 二、 見わたしひろく、
かぎりなき。
青海原は、
ゆくもあり。
- 三、 神のしらせる、
國なれば。
數の寶を、
すさのをの。
藏めたり。
- 四、 海はゆたけき、
時もあり。
怒りてすさぶ、
をりもあり。
- 五、 道を開きて、
大君に。
待ちてあり。
さげんものと、
わたつみは。
海を見よ。
- 六、 ゆたけしとても、
ゆだんすな。
いかりたりとも、
おそるなよ。

海 國 女 子

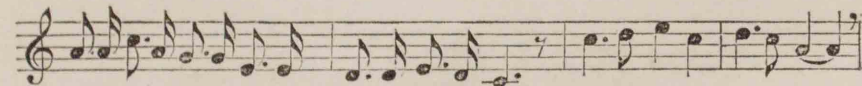
Allegrezza. ♩ = 120.



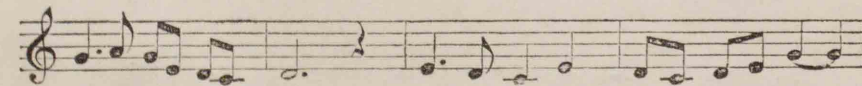
一 サカマツナミヲ モノトセズ カ子サヘトーケル
二 みなきるかぜを ものとせず つきさへこーほる



ナツノヒニ コキヤウチアトニー ウミトホタ
ふゆのよに こきやうをあとにー うみとほく

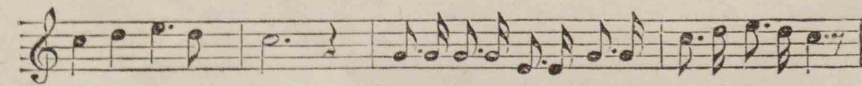


バンリノドタウチ ケタテツツ マダミヌクニニー
ばんりのどたらな けたてつつ まだみぬうみをー



ウチローター リ セカイノ サーチーラー
こぎわーけー て そこなる しーんーじゆな

九



チニトラ ン ニクニクチミナゴ イザトモニ
あさらなん ゆけゆけをみるご いざともに

海 國 女 子

小 森 松 風

八

一、 逆巻く浪を、

故郷をあとに、

まだ見ぬ國に、

ゆけくをみなご、

物とせず。

海洋遠く。

うち渡り。

いざ共に。』

金さへ鑠る。

萬里の怒濤を、

世界の幸を、

夏の日に。

蹴立てつゝ。

手に取らん。

二、 身をきる風を、

故郷をあとに、

まだ見ぬ洋を、

ゆけくをみなご、

物とせず。

海洋遠く。

漕分けて。

いざ共に。』

月さへ凍る、

萬里の怒濤を、

底なる眞珠を、

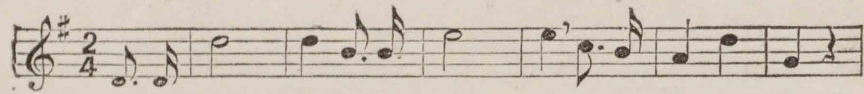
冬の夜に。

蹴立てつゝ。

あさらなん。

帝國海軍

Allegretto. ♩ = 120.



一、パン ラ イ イ ナ シ ニ オ ナ タ リ ナ
 二、と け い の は ー リ の た え ま な く
 三、イ ッ テ ウ コ ー ト ノ ア ラ ン ヲ リ
 四、う み せ ま き ー ま で ふ れ を う け



ダイカイ イチジニクツガヘ リ テキノーカンタイ
 よはすす みつつーやむまなし さらばーきのふに
 フジヤーアサマヤロエツク バ イハミーサツマヤ
 あしより しげくーつつをす 系 くにをーまもりの



グダキシ モ イマ ハ ームカシ ノモーノ
 いやまして けんか んきよは くかーす
 シキシマノ ウミヲ ーオホヒ テスー
 かたから ば よに あ だなーみ はたーた



ガタリ テイコクカイガン パン パンザイ
 ませり ていこくかいぐん ばん ばんざい
 ママシ テイコクカイガン パン パンザイ
 にかし ていこくかいぐん ばん ばんざい

帝國海軍

加部 嚴 夫

一、萬雷一時に、
 敵の艦隊、
 帝國海軍 萬々歳。』
 墜ちたりな。
 碎きしも。

大海一時に、
 今は昔の、
 ものがたり。
 くつがへり。

二、時計の鍼の、
 さらばきのふに、
 帝國海軍 萬々歳。』
 たえ間なく。
 いやまして。

世はすくみつゝ、
 堅艦巨舶、
 數増せり。
 やむまなし。

三、一朝事の、
 石見薩摩や、
 帝國海軍 萬々歳。』
 あらんをり。
 敷島の。

富士や淺間や、
 海を覆ひて、
 比叡筑波。
 すままし。

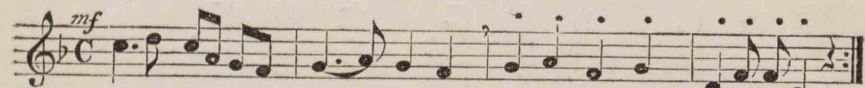
四、海せまきまで、
 國をまもりの、
 帝國海軍 萬々歳。』
 船を浮け。
 かたからば。

葦よりしげく、
 世にあだ波は、
 砲をすゑ。
 たしじかし。

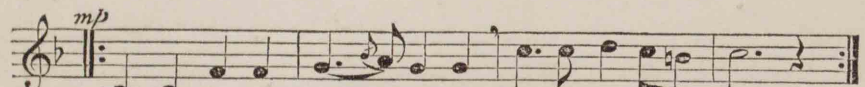
秋の散歩

Moderato. ♩ = 120.

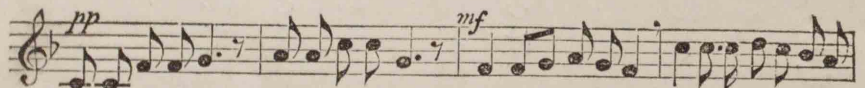
天谷 秀



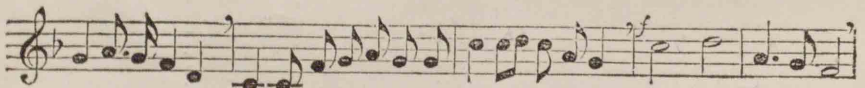
ハコニハミチヌ マツムシ スズムシ
カゴニハ アマレリ ガチグリ プダーウ



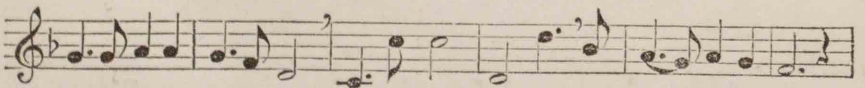
マツカゼ サームシ シロノアト
スースキ ミダルル コセンザヤウ



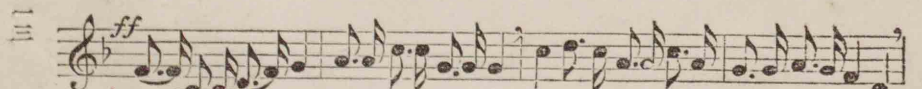
クモシロク ミヅアナシ モミーヂバニ サスヤユフヒナ



ソノママニ フミニツクラム エニカカム ヲヲタカク



ココロモキヨシ アハレコノア キービヨリ



ヤーマニノニ ヲガユクトコロ ナベテイキタル マナビノニハ



タノシヤニカム キーミモアレモ ウレシヤユカム ケーフモアスモ

秋の散歩

棟方 悌二

三

箱には満ちぬ、

松蟲鈴蟲。

籠にはあまれり、

落栗葡萄。

松風寒し城の址、

薄みだると、

古戦場。

雲白く、水青し、

紅葉ばに、

さすや夕日を、

そのまゝに。

文に作らむ、

畫にかゝむ、

空高く、

心も清し。

あはれこの、

秋日和、

山に野に、

我が行く所。

なべて活きたる、

學びの庭。

樂しや行かむ、

君も我も。

嬉しや行かむ

今日も明日も。

日光

旗野十一郎

一、山に水に、

あこがれて。

世の諺に、

いふごとく。

ふたらのやまの、

神の宮。』

名所見む人、

まづみよと。

藐姑射ならねど、

玉くしげ。

二、春に秋に、

つねなれど。

東を照らす、

みやしろは。

いろ升形の、

花紅葉。

名たゝる瀧津瀬、

世にひゞき

ひと日暮の、

門もあり。

三、朝に夕に、

あけくれも。

今あらためて、

日の光る。

他國までも、

およぶなり。』

うきよにことなる、

かみの山。

郷と名に負ふ、

かざやきは。

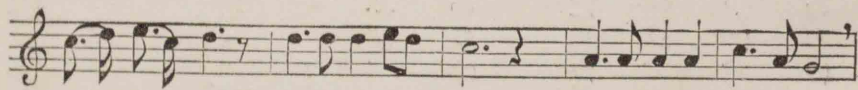
日光

天谷 秀

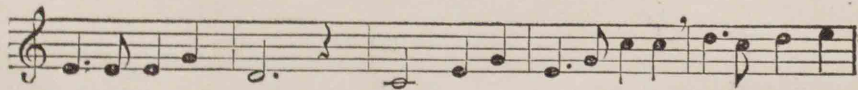
Moderato. ♩ = 112.



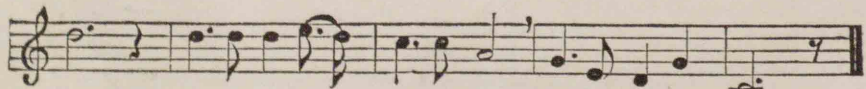
一、ヤマニミヅニア コーガレテナ ドコロミ
 二、はるにあきにつ ねなれどなたたるた
 三、アサニユフニア ケツレモウキヨニコ



ムーボート マヅミヨート ヨノコトヲザニ
 き一つせ んにひびき あづまをてらす
 トーナル カミノヤマ イマアラタメテ



イフゴトク ハコヤナラネドタマケシ
 みやしらは ひとひぐらしのかどもあ
 ヒノヒカル サトナニオフカガヤキ



ガ フタラノ ヤマノ カミノミヤ
 リ いるますー がたの はなもみぢ
 ハ ヒトクニ マデモ オヨブナリ

音 樂 會

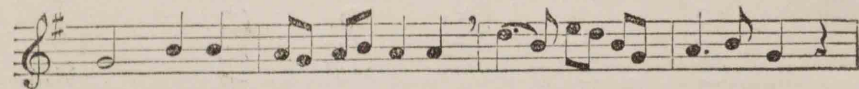
Andante. ♩ = 96.

内 田 乘 太 郎



一、タ ニ ノ ヴーグーロスマル マーダ— ヲ カク

二、お の が て—だ—れ の た？ な—み—く—ら—べ



キ ギ ノ モ—モ—トリ シ—ラ—ペ—タ カ シ

ピ ア ノ ガ—ル—ガン ひ—き—し—き—ら—す



イ ズ レ モ キ—ヨ—キ— ヴ—タ—ノ ハ—マ

し—ら—べ—は—あ—や—に— か—ら—に—し—き



カ ロ ア ル ケ フ ノ クロイニヅ アリケル

た た ま く を し き くわいにぞ ありけ る

音 樂 會

旗 野 十 一 郎

一、たにのうぐひす、春まだわかく。

きぎの百鳥、しらべたかし。

いつれもきよき、歌の濱、かひある今日の。

會にぞありける。』

二、おのがてだれの、たしなみくらべ。

ピアノ、オルガン、ひきもきらず。

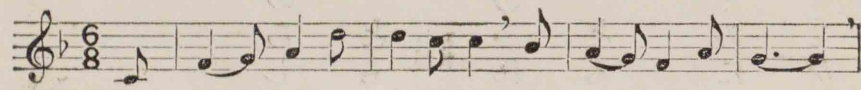
しらべはあやに、唐錦、たたく惜しき。

會にぞありける。』

秋 野

Moderato. ♩ = 108.

天 谷 秀



一、マ 子 - ク ナ バ ナ ニ サ ソ - ハ レ テ
 ニ、む ら さ き に ほ - ふ は ぎ - き き や う
 三、カ リ ガ 子 ソ タ - ル ヤ マ - ノ ハ ニ

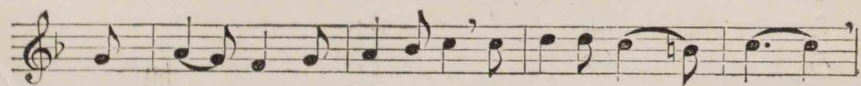
pp



ト ヒ キ シ ソ テ - ナ フ ク - カ セ ニ
 キ ゴ も と み ゆ - る な み - な べ し
 タ キ - ノ シ ラ イ ト ソ メ - ナ シ テ

Cresc

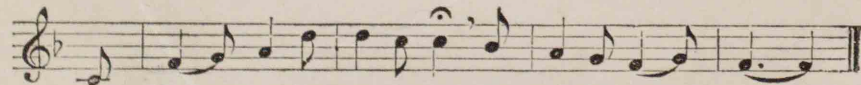
rit



コ コ - ロ ス ミ ユ グ ア キ ノ ソ - ラ
 も リ - な め ぐ り て ゆ く み づ - に
 オ リ ナ ス モ ミ ダ ノ カ ラ ニ シ - キ

一九

ff p rit



ノ ベ - ノ ナ ガ メ モ オ モ シ ロ - ヤ
 あ き - つ と び か ふ な の す - そ
 シ タ テ ル ヒ メ - ノ タ ス サ ビ - カ

秋 野

小 森 松 風

一八

一、まねく尾花に、

誘はれて、

訪ひ來し袖を、

吹く風に。

こころ澄みゆく、

秋の空。

野邊の眺望も、

おもしろや。

二、むらさき匂ふ、

萩桔梗。

黄雲と見ゆる、

女郎花。

森をめぐりて、

行く水に。

蜻蛉飛び交ふ、

岡の裾。

三、かりがね渡る、

山の端に。

瀧のしらいご、

染めなして。

織りなす紅葉の、

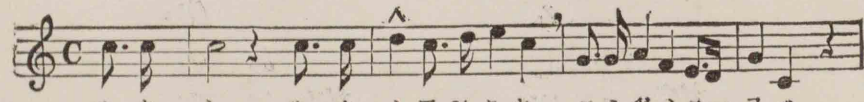
唐錦。

下照姫の、

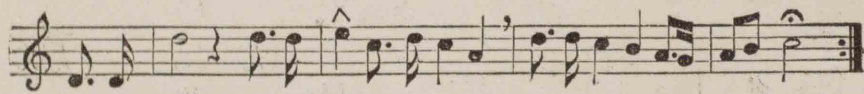
手すさびか。

校友會閉會の歌

Allegretto. ♩ = 116.

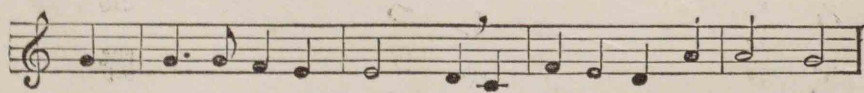


ハナノハナノアシタヤモミザノユーフマ
ワカレワカレワカレニミチコソカーハレ

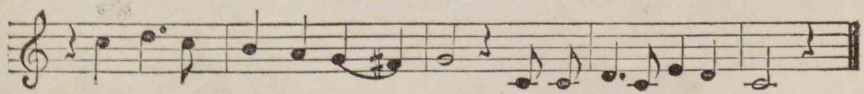


トモニトモニハガミシムカシナシノービ
トモニトモニツクサンミクニノタメニ

Moderato. ♩ = 108.



タフノマトキニカギリハアレド



ナガクメノシーキワレラガコロ

校友會閉會の歌

加部 巖 夫

花の、花のあしたや、もみぢのゆふへ。

ともに、ともにはげみし、むかしをしのび。

わかれ、わかれわかれに、道こそかはれ。

ともに、ともにつくさん。皇國のために。

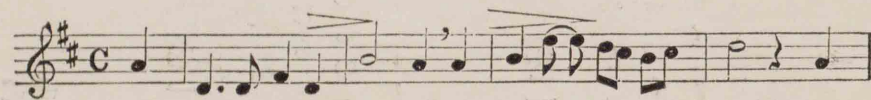
けふのまとるに、かぎりはあるぞ。

ながくたのしき、われらがこころ。

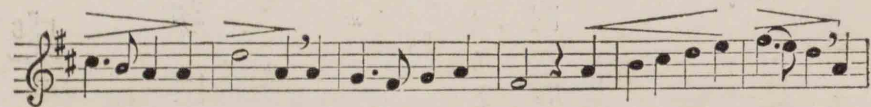
曉の旅

Bewegter. ♩=120.

Volksweise.



一、ヨナカノサゴリホシニミセテア
ニくるみしこだちあなをくはれてた



ケユクソラノニホヒスス A タビダツヒトノア
のもにつづくのらのひろさたびゆくひとのむ



シモトモニホガラホガラヤマノハイキ
ねもそれよあなたあなたみわたすまな



ツキテノボルアサヒイサマシキ
さきにかはるげしきおもしろや

曉の旅

旗野十一郎

一、夜半のなごり、星に見せて。

あけゆく空の、映ひすゝむ。

旅立つ人の、足もともに。」

ホガラホガラ、山の端息つきて。

のほる旭日、いさましや。」

二、黒みし樹立、青く晴れて。

田の面につづく、野らのひろさ。

旅行く人の、胸もそれよ。」

アナタコナタ、見わたすまなさきに。

かはる景色、おもしろや。」

詠史

Larghetto. ♩=66.

金須嘉之進

ヨ ル ノ オ ト ド ニ ト ノ キ シ テ
 ミ キ ミ と オ ヤ と の フ タ ミ チ ニ
 ヒ キ ナ ラ シ ター ル ア ヅ サ ユ ミ
 カ ケ テ ツ ク セー ル コ ト の ハ は
 ッ ル ノ オ ト ニー モ オ ホ キ ミ ノ
 イ ク サ の ニ は ー の イ サ ナ に も
 ゴ ナ ツー ナ コ ツ ハ ヤ ス メ ケ レ
 マ サ リー タ リ ケ リ ウ へ し こ そ
 ソ ノー ア ヅ サ ユ ミ ミ マ ク ラ ノ
 コ マ ー ツ は チ ョ の の チ マ デ も
 ヨ ル ノ マ モー リー ト ナ リ ニ ケ リ
 カ シ コ キ ター メ し に ひ か れ け れ

二五

詠史

第一、義家朝臣

三田 葆光

君

とおやとの、
かけてつくせる、
いくさの場、

第二、小松内府

兩

いと道

のをはに。

曳ちこには。
れまも。
でそ。
けも。
れ。

よるの大殿に、
ひきならしたる、
つるのおとも、

御腦をこそは、
そのあづさ弓、
よるのまもりと、

と
梓の
大あ
や
御す君
なめ
り枕の
にの
けり。

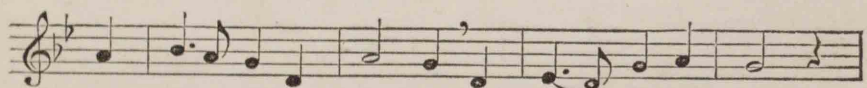
二四

月

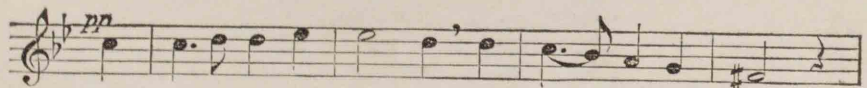
Moderato. ♩ = 96.



一、チ グ サ ニ ス ダ グ ム シ ノ 子 ナ
 二、を か の し た み ち す ぎ く れ ば
 三、コ ノ カ ハ カ ミ ニ テ ラ ヤ ア ル て
 四、か な し き む し の ね に そ へ て

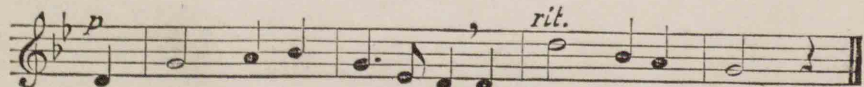


キ キ ツ ツ タ ド ル ノ ダ ノ ス エ
 ど ば し か か れ る い さ が は
 カ ネ ノ 子 サ ヘ モ ヒ ビ グ ナ リ
 か ね の ひ び き に ふ え の こ ゑ



ヲ バ ナ ソ デ ニ マ ネ カ レ テ
 な が る る な と は か す か に て
 コ ノ カ ハ シ モ ニ タ レ カ ス ム
 か も は す し ぼ る わ か そ で の

二七



ノ ホ リ シ ツ キ ノ サ ヤ ケ サ ヨ
 そ こ に や ど れ る つ き の か げ
 フ エ ノ 子 サ ヘ モ キ コ ユ ナ リ
 な み だ に つ き も や ど れ る か

月

小森

松風

二六

一、ちぐさにすたく、

をばなの袖に、

二、をかの下道、

ながるゝ音は、

三、このかはかみに、

このかはしにも、

四、かなしきむしの、

おもはずしほる、

蟲の音を。

まねかれて。

すぎくれば。

かすかにて。

寺やある。

たれかすむ。

ねにそへて。

わがそでの。

きつゝたどる。

のほりし月の、

土橋かゝれる。

そこに宿れる、

かねのねさへも、

ふえの音さへも、

鐘のひびきに、

なみだにつきも、

野路のすゑ。

さやけさよ。』

いさゝがは。

月のかげ。』

ひびくなり。

きこゆなり。』

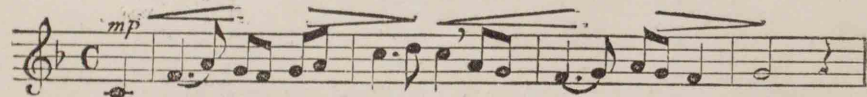
笛のこゑ。

やどれるか。』

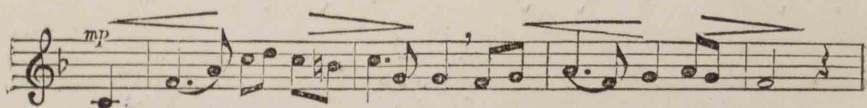
窓の小鳥

Andante. ♩ = 96.

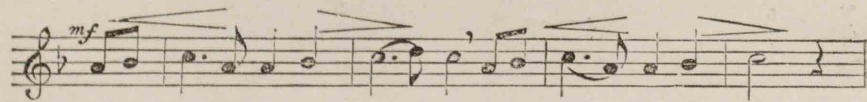
天谷秀



一、シ ヅ ケ キ マドノ イー サー サード リ
 二、こ とーりーもーまどにはーかーげーさし
 三、タ キーモーノーカナルフーミーノーヘ ヤ



チ ヨーチーヨーナニチカータールラーム
 ひ とーまーちーかほやふーぐーさむーる
 フ ルービーニイマチシーラーガホーザ



ハールノアソ ビーノオーモーシロサ
 かーまのきりすーみつーぎーつぎに
 ビートノツレ ヅーレオードーカシテ



ウメーノハナニモシーレットテーカ
 おもーひまうけのうーたがたーき
 マドーニサヘツルグーロツグーミ

窓の小鳥

旗野十一郎

一、静けき窓の、

春のあそびの、

いさゞどり

面白さ。

チヨチヨなにを、

梅の花にも、

語るらむ。

知れとてか。

二、小鳥も窓に、

釜の切炭、

羽影さし。

つぎつぎに。

人待がほや、

思ひ設の、

慰むる。

歌對手。

三、薰物かをる、

他の徒然、

書齋。

おどかして。

古風に今を、

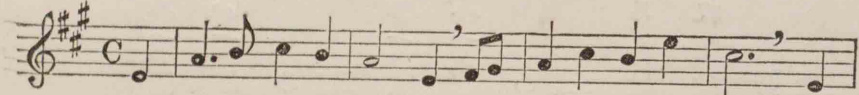
窓に囀る、

白髪翁。

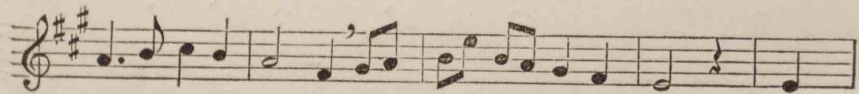
黒鵜。

建 都

Moderato, ♩ = 108.
(と調に移調スルコトナ得)



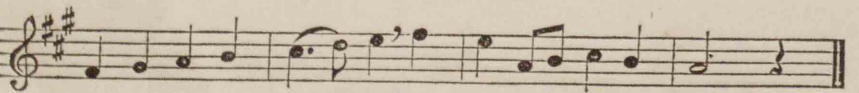
一、ミ イヅノカゼニミヨハナビキア
二、むさしのはらはつきのがけのく
三、ワガオホキミノオマシドロロチ



ツマニミヤコサダメタマフ
さよりいでてくさーにーいるまう
ヨダノシロチナカニオキテヨ



スルナメイザガーンチンノカ
たひしあとはところしめてあ
サトニヲタルチマタチマタ



ミナシヅキーノシフサーニチゾ
なひとぐさーのやなら一つづく
ガオホキミーンオマシードコロ

建 都 (紀念歌)

旗野十一郎

一、御威光の風に、
東國に帝都、

御世は靡き。
定めたまふ。

忘るな明治、
十月の、

元年の。
十三日ぞ。

二、武蔵の原は、

草よりいで入、

月の影の。
草にいと。

歌ひし跡は、
蒼生、

所しめて。
家並つらく。

三、わがおほきみの、

千代田の城を、

おましどころ。
中央におきて。

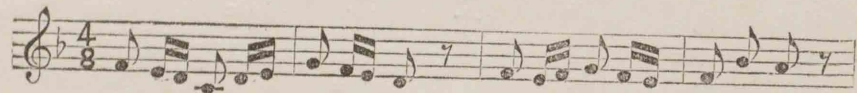
四里に渡る、
わがおほきみの、

街
おましどころ。

海水浴

岡野貞一

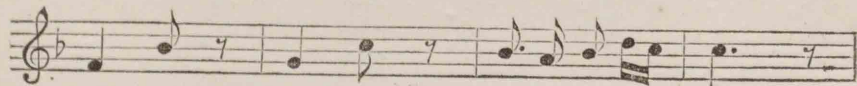
♩=120.



一、アミ―テハ―ヤス―ム セイ―シヨウ―ノカゲ
 二、うき―ては―まれ―ぐ かん―お―う―のとも
 三、ヒル―マハ―アソ―ブ サウ―ラウ―ノキシ

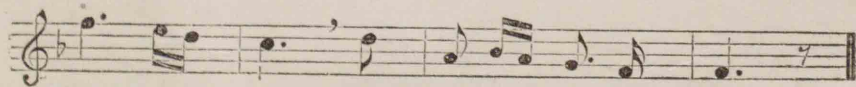


アイ―テハ―ネム―ル ハクサノウ―ヘ
 しづ―みて―のぞ―く ぎ―かのあ―し
 グレ―テハ―ナガ―ム ロウトウノホシ



ミズ ミズ ダントノウ―メ
 ああ ああ かいほのう―ち
 ミハ ミハ バンリノカーグ

三三



サン シウ―カン イヘヲ―ラスル
 さん しう―かん われを―わする
 サン シウ―カン タビヲ―ラスル

海水浴

旗野十一郎

三三

三	三	二	一
三身 <small>み</small> は、	三あ	三み	一あみては、
く	ひるまは、	浮 <small>う</small> きては、	あいては。
れては、	な	沈 <small>しづ</small> みて、	やすむ、
は、	がむ、	のぞく、	ねむる、
は、(身は)	遊 <small>あそ</small> ぶ、	まねぐ、	やすむ、
は、(身は)	樓頭 <small>ろうとう</small> の星 <small>ほし</small> 。	閑鷗 <small>かんおう</small> の友 <small>とも</small> 。	白砂 <small>はくさ</small> のうへ。
旅 <small>たび</small> を忘 <small>わす</small> る。	萬里 <small>ばんり</small> の客 <small>かく</small> 。	漁舸 <small>ぎよか</small> の脚 <small>あし</small> 。	青松 <small>せいしょう</small> のかげ。
旅 <small>たび</small> を忘 <small>わす</small> る。	萬里 <small>ばんり</small> の客 <small>かく</small> 。	吾 <small>われ</small> を忘 <small>わす</small> る。	塵都 <small>ちんと</small> の夢 <small>ゆめ</small> 。
旅 <small>たび</small> を忘 <small>わす</small> る。	萬里 <small>ばんり</small> の客 <small>かく</small> 。	海波 <small>かいは</small> のうち。	塵都 <small>ちんと</small> の夢 <small>ゆめ</small> 。

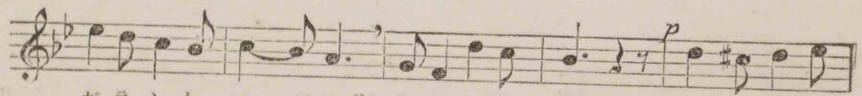
長良河の鶺鴒

Andante. ♩ = 56.

金須嘉之進



一、ミ ニヘ マツ ルー ト キ ミ ガ ヨ ノ ナ
二、あ ら う ま と リー の は た た き に か



ガラノカ ハーノ ヲ サガヒブ 子 サバカタ
はせのあゆーご さわぐなり とるてひ



ナハノ アヤードリモ イクトモガ ゲーガミ
くての あつーかひは としふるおちーのた



ナレザ チ サ スツキマ ダーキ ヨロヤミ
な一れわざ ほかげもゆら一ぎかほのも

三五



ニ カ ガリターク サヘオ モーシロヤ
に か がリーつらふおもーしるや

長良河の鶺鴒

旗野十一郎

三四

一、御贄奉ると、

君が代の。

ながらの川の、

うがひ舟

さばく手繩の、

あやどりも。

幾年翁が、

みなれ棹。

さす月まだき、

宵闇に。

篝火たくさへ、

面白や。

二、新鶺鴒の、

羽鼓きに。

河瀬の鮎兒、

騒くなり。

とる手曳く手の、

あつかひは。

としふるおちの、

手煉業。

火影もゆらぎ、

川の面に。

篝火うつらふ、

面白や。

古 戦 場

Andante. ♩=96.

天 谷 秀



一 マ ッ ノ ア ラ シ ニ ハ タ ホ ル ガ ヘ シ ー

二 か り ば の つ か に た て る は た が ひ ー



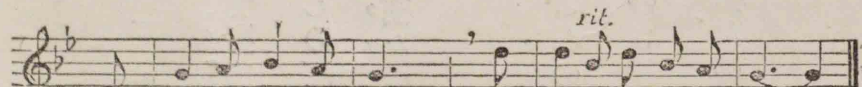
カ ナ ド キ タ カ ク コ マ オ ヒ オ レ シ ー

か ぜ に さ ら さ れ あ め に う た れ て ー



ノ ナ ト ヒ ク ー レ バ ヤ サ ケ ビ タ エ テ ー

こ け か ひ し ー げ り な こ そ よ め れ ど ー



ツ キ カ グ ス ゴ ク ナ ク ク ヅ ヲ ム シ ー

ち ゅ ー こ ん ぎ し の ほ ま れ は く ち じ ー

三七

古 戦 場

三六

一 松のあらしに、

軍旗ひるがへし。

勝哄高く、

駒追ひ入れし。

野を訪ひ來れば、

矢さけび絶えて。

月影すこく、

鳴く響むし。』

二 落葉の墳に、

建てるは誰が碑。

風に晒れ、

雨に打たれて。

苔生ひ茂り、

名こそ讀めねど。

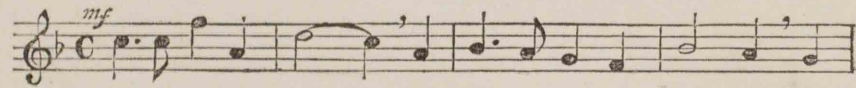
忠魂義士の、

榮譽は朽ちじ。』

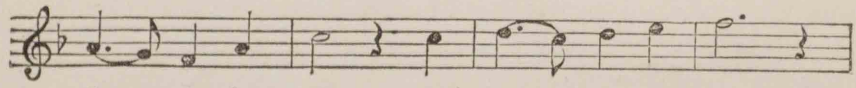
芳野山

Moderato. ♩=108.

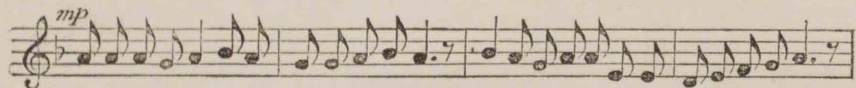
楠美恩三郎



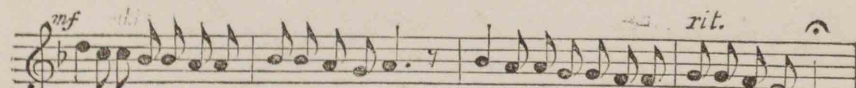
ニヨキヒトノ一ヨシトホメタルヨ
ニよきひとのーよしとほめたるよ



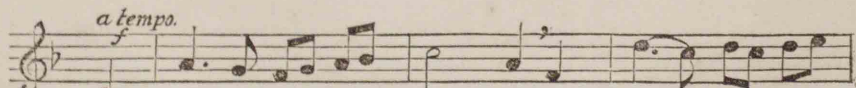
シ一ノヤマヨシ一ノヤマ
しーのやまよしーのやま



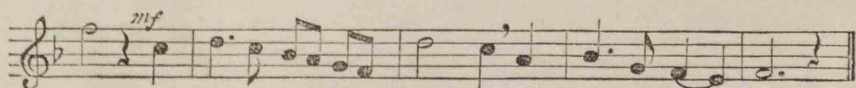
マヅリニノコスモノフノサタニムカシチシノバセテ
ふぶきになやむたわやめがゆきのすがたぞいさぎよき



ヤマトゴコロノアトトヘバタニノシタミヅキギノトリ
みさをごころのあととへばたにのしたみづきぎのと



アハレソノ一ヨチカタルナー
あはれそーのーよなかたーるなー



リアハレソノ一ヨヲカタルナーリ
りあはれそーのーよなかたーるなーり

三九

芳野山

旗野十一郎

三六

一、淑人の、

鏃尻に遺す、

大和心の、

『あはれその世を、

二、淑人の、

吹雪になやむ、

貞操心の、

『あはれその世を、

善と賞たる、

ものゝふの。

あととへば。

かたるなり。』(復唱)

善と賞たる、

手弱女が。

あととへば。

かたるなり。』(復唱)

芳野山。

歌にむかしを、

谷のした水、

よしのやま。

雪のすがたぞ、

谷のした水、

谷のした水、

芳野山。

しのばせて。

樹々の鳥。

よしのやま。

いさぎよき。

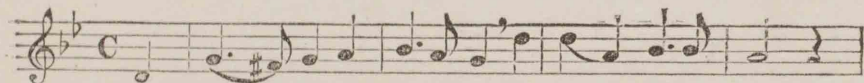
樹々の鳥。

樹々の鳥。

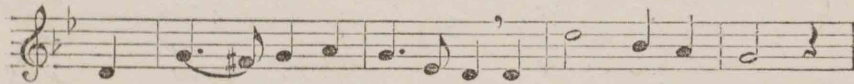
薩摩守忠度

Mesto. ♩ = 92.

天谷 秀



一、ツユ エーイノ アキノ コガー ラシ ニ
 二、よ の ーくも ゆきも ただ ーなら ず
 三、カ バ ー子ッ ヤマニ サラ ースト モ
 四、こ た ーびの しふに いっし ーだ ーに
 五、サ グ ーリイ ダセル ヒト ーマ キ ナ

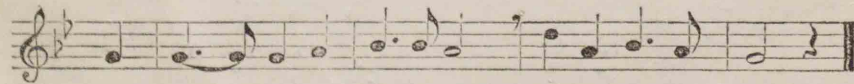


ム カ ーシノ エ イグッ ユ メ ト キ エ
 ま し ーてい ぶ せき よ は の そ ら
 リ キ ーナッ ナ ミ ニ ナ ガ ス ト モ
 く ち ーぬか た み に 交 ら れ な ば
 ナ ミ ーダナ ガ ラ ニ ソ タ シ カ キ



サ イ カ イ ト ホ ク マ ー ヨ ー ヒ ユ ク
 こ で う さ ん み の も ー ん ー ぜ ん に
 サ ラ ニ イ ト ハ メ タ ー グ ー ノ リ ガ
 く さ ば の か げ の よ ー ろ ー こ び に
 フ ケ ユ ク ッ キ ノ カ ー ガ ー サ シ テ

一 番



へ イ ー ケ ノ ス エ ズ ア ハ レ ナ ャ
 さ つ ー ま の か み は び き か へ し
 コ レ ー ヤ カ ギ リ ノ メ イ ポ グ ニ
 の ち ー の か も り と な な ム ャ と
 サ ギ ー リ ニ マ ギ レ オ チ テ ャ

薩摩守忠度

林

森 太 郎

一、壽永の秋の、
 西海遠く、
 二、世の雲行も、
 五條三位の、
 三、屍を山に、
 更に厭はぬ、
 四、こたびの集に、
 草葉のかげの、
 五、さぐり出せる、
 ふけ行く月の、

木 枯 じ に。
 迷 ひ ゆ く。
 門 た い なら ず。
 前 前 に、
 忠 さ ら す と も、
 度 が。
 影 一 首 だ に。
 さ し て。
 巻 を。

昔の榮華、
 平家の末ぞ、
 ましていふせき、
 薩摩守は、
 うき名を、
 これや限りの、
 朽ちぬ形見に、
 後の守りと、
 涙ながらに、
 さ霧にまぎれ、

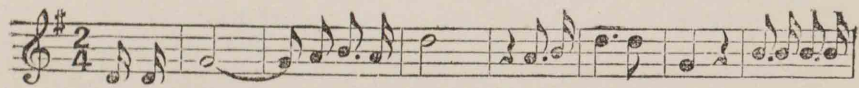
夢と消え。
 あはれなる。
 夜半の空。
 引きかへし。
 波に流すとも。
 面に目に。
 撰られなば。
 なりなむと。
 わたし置き。
 落ちてゆく。
 四〇

神州男兒

加部 嚴 夫

神州男兒

Allegretto Scherzando ♩ = 1:0

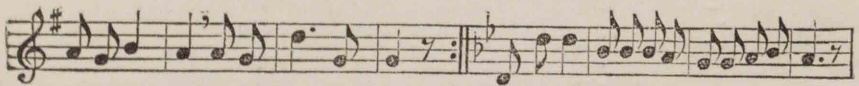


一、アライ　一ツナミ　ハ　ヨセグト　モ　ヒマラヤ
トラガ　一ホユト　フ　アラノラ　モ　ワシガ一
テンガ　一イバン　リ　ウチナビケ　セカイ一

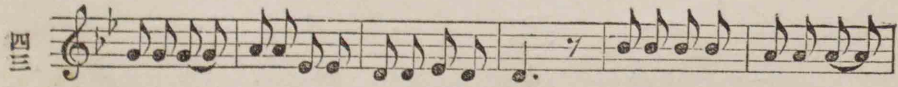


オロシ一　ハグシグ　モ　シンシウ　ダンジノ　タマシヒ　ハイカ　テ
トブチフ　ホクカイ　モ　ヒトタビ　アシチ一　アグルト　キトラ　モ
クマナグ　マツロヘ　テ　ワガオホ　キミニ一　ササグル　ハシン　シウ

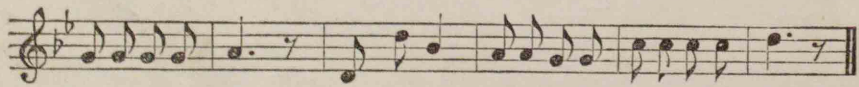
Moderato. ♩ = 100.



クダケ　ンクダ　ケメ　ヤ　ヤ　ヨヤ　マスラ　チケン　ダン　ジ
チラフ　セロシ　モ　オ　ツ
ダン　ジ　ノ　ホン　ブ　ン　ゾ



マタキ一　カハラハ　ナニカセ　ン　クダケ　テ　タマト一



ナレヨカ　シ　マ　タ　キ　カハラハ　ナニカセ　ン

二、太平洋や、太西洋。

神州男兒の、名をあげよ。

吉林春賓、西比里亞も。

雷とらうきて、くらけれど。

ゆげやすめや、

海はあせなば、あせぬべし。

洋々渺々、

はてもなし。

いたらん國に、

いそしみて。

ありなれがはも、ふかゝらす。

長白山も、

たかゝらす。

今は皇國の、垣内なり。

黒雲おこり、

風すさび。

光あり。

神州男兒の、

たましひは。

やみをもてらす、

さけぬべし。

さけぬべし。

たましひぞ。』

一、荒磯浪は、

よせ來とも。

比呂羅那おろし、

烈しくも。

神州男兒の、

たましひは。

いかで碎けん、

くだけめや。

虎が吼ゆとふ、

あら野らも。

鷺がとぶちふ、

北海も。

ひとたび足を、

あぐるとき。

虎も尾をふせ、

鷺もおつ。

天涯萬里、

うちなびけ。

世界くまなく、

まつろへて。

わが天皇に、

さゝぐるは。

神州男兒の、

本分ぞ。

やよやますらを、

健男兒、

またき瓦は、

何かせん。

何かせん。』

くだけて玉と、

なれよかし。

またき瓦は、

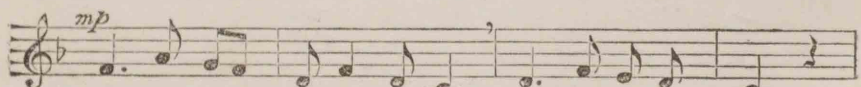
何かせん。』

ロッキー山吹雪

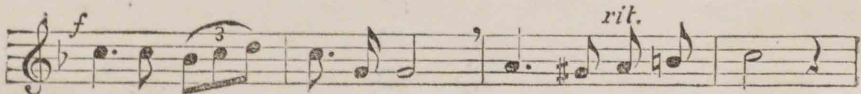
Andante. ♩ = 72. 天谷 秀



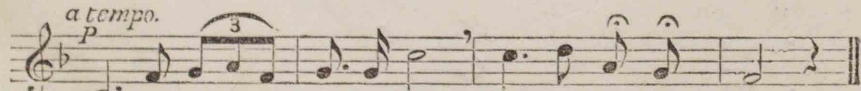
一、ユキガノーカセハブキスサミ
 二、ただゆくーものはレンジール
 三、ミソタスーミネモノモカハモ



アラスーノヤマモミエリカズ
 ひとあしすすまれす
 ユキニシラケテモノスゴシ



ヨハジロータヘニツツマレシ
 しるかれのヤママヘにおき
 ロッキーザンノアサフブキ



ロッキーザンノオホフブキ
 ふぶきーにといきつくづくと
 ロッキーザンノエフフブキ

四五

落機山吹雪

旗野 十一郎

四四

一、雪^{ゆき}の風^{かぜ}は、吹^ふきすさみ。

世^よは白^{しろ}妙^{たへ}に、包^{つく}まれし。

荒^あす野^の山^{やま}も、見^みえわかず。
 ロッキー山^{ざん}の、おほふぶき。』

二、ただ往^ゆくものは、レンジール(鹿馴)

白^{しろ}銀^{かね}の山^{やま}、前^{まへ}に置^おき。

人^{ひと}はひとあし、進^ままれず。
 吹^ふ雪^{ゆき}に太^と息^{いき}、つくづくと。』

三、見^みわたす峰^{みね}も、野^のも河^{かは}も、

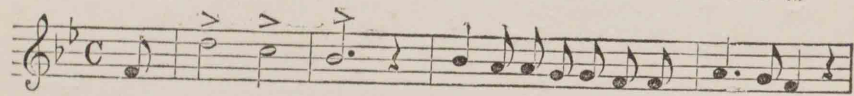
ロッキー山^{ざん}の、朝^{あさ}ふぶき。

雪^{ゆき}にしらけて、物^{もの}凄^{すご}し。
 ロッキー山^{ざん}の、夕^{ゆふ}ふぶき。』

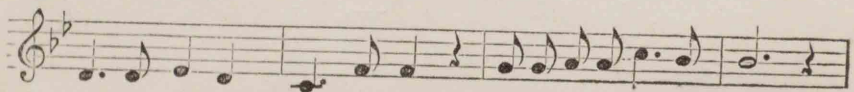
山家の初冬

Moderato. ♩ = 120

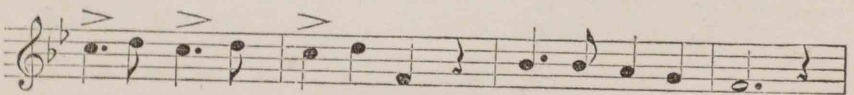
楠美恩三郎



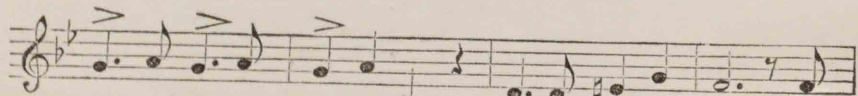
ニウキヨノミチハオチバニウモレ
ニしぐれにしばのさぼそはさしぬ



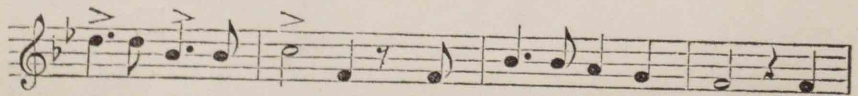
カセノミカヨフアトコソミユレ
こからしたたくおとのみのこし



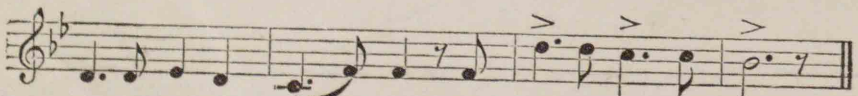
アハツクキネノオトヅレモ
のきばのたきぎつみなくて



コタヘハタニノミツマカセヨミ
ぬるりのほだのいぶせきもみ



ニモサルサキコトハナグテココ
にはけぶたきおもひしらでこ



コロヤスキハフユノヤマガ
こるやすきはふゆのやまが

四七

山家の初冬

旗野十一郎

一、浮世の、道は落葉にうもれ。

風のみかよふ、跡こそ見ゆれ。

粟つく杵の、音信も。應は谷の、水まかせ。

世にも五月蠅、事は無くて。心安きは、冬の山家。』

二、時雨に、柴の扉はさしぬ。

風 鼓く、音のみ残し。

のきばの薪、つみなくて。圍爐裏の榎の。いぶせきも。

身にはけぶたき、念知らで。心安きは、冬の山家。』

四六

恵の波

Moderato. ♩ = 96.

天谷 秀

テ — キー ミ カ タ キズツク ヒートモ ヤム ヒトモ

マモリタスクル ヒトノ テニ モーレヌメケミノ ナミキヨミ

オーホミ—ヨ—ム シナヌクスリモ アリソウミ

♩ = 80.

ソコヒモシラヌ ナサケカナ ホソヌ—ノ—チ マ

クヤタマ テ—ニイ ク—バク ノ ヒ

四九

トノイノ チ—モツ ナギト—△ ラン コシ

ト スクヒノ カミノツザコレ ヤ マコトノ ヒトノミチ

恵の波 (看護婦)

下田 歌子

四八

敵味方、傷く人も、病む人も。

看護り助くる、人の手に、洩れぬ恵の、

波清み。

大御代は、死なぬ薬も、ありそ海。

底ひも知らぬ、情かな。

細布を巻くや玉手に。幾ばくの。

人の命も、繋ぎとむらん。

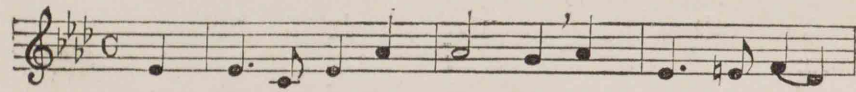
これや救の、神のわざ。

これや誠の、人の道。

樂 聖

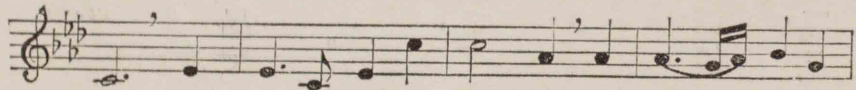
Maestoso. ♩ = 60.

岡野貞一



ニ ト キ ノ ミ カ ド ノ ミ コ ト ニ

ニ さ き の み か ど を さ げ す み



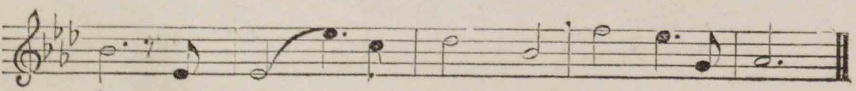
モ ユ キ テ カ ヘ ラ ヌ セ イ ー カ イ

て よ に は い だ さ ぬ シ ン ー ホ ニ



ハ ア ア ー ガ ク モ セ イ ナ

ー あ あ ー が く も せ い な



リ ア ア ー ヒ ト モ セ イ ナ リ

リ あ あ ー ひ と も せ い な リ

樂 聖

一、時ときのみかど(白河天皇)の、

ゆきてかへらぬ、

ア、樂がくも聖せい也なり、

二、時ときのみかど(帝)を、

世よには出いださぬ、

ア、樂がくも聖せい也なり、

勅みことにも。

青あお海うみ波なみ。

ア、人ひとも聖せい也(樂人時)、

さげすみて。

シンホニー。

ア、人ひとも聖せい也(ビートルズ)、

旗野十一郎

黄 鳥

Moderato. ♩ = 116.



一、タニノ フルス ハブ キ イ --- デ
 二、か なる う め の な が さ き --- て
 三、モ モ チ ド リ ノ ナ カ メ マ --- ニ



コ ノ メ ハ ル ニ ヲ ツ ロ ヒ
 は る な う た ふ こ の さ リ
 ヒ ト リ サ ケ プ サ キ ガ ケ



オ ノ ガ エ タ ル タ カ ネ ア --- ゲ
 き よ き た げ の さ え だ つ --- き
 ヒ ト ニ シ ラ レ ヨ ニ モ ナ --- リ



ミ ヨ ナ イ ハ フ ヲ グ ヒ ス
 は る な を ど る こ の と リ
 ミ ヤ ビ ヲ ザ ニ ト モ ナ ヒ

五三

黄 鳥

旗野十一郎

五二

一、谷の古巢、

羽振き出で。

このめ春に、

うつろひ。

自が得たる、

高音あげ。

御代を祝ふ、

うぐひす。』

二、薫る梅の、

小笠被て。

春を歌ふ。

斯鳥。

清き竹の、

小枝杖き。

春を躍る、

斯鳥。』

三、百千鳥の、

啼かぬ間に。

獨叫ぶ、

さきがけ。

人に知られ、

世にも鳴り。

風雅業に、

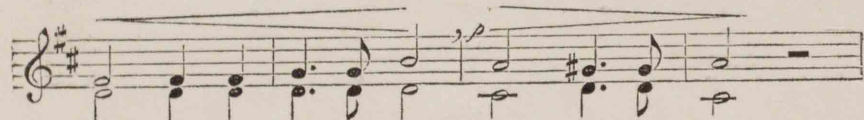
ともなひ。』

春の歌

Gentle. ♩ = 96. Weber.



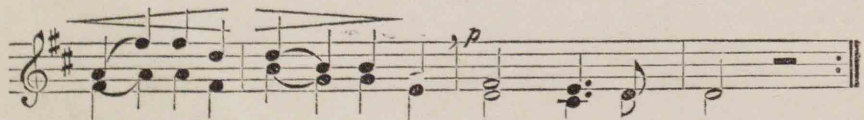
ハ ナ ニ カ ス ム ハ ー ル ノ ヤ マ
は れ に け ぶ る は ー る の の べ



ヨ モ ノ ナ ガ メ ノ ド カ ニ
ど こ も あ や に い る め き



ミ タ リ ヨ タ リ ア ソ ー プ ー ヒ ー ト
あ と に さ き に な と め ど も



コ シ ノ ヒ サ コ プ ラ プ ラ
な ー ぐ さ つ ー む と ぶ ら ぶ ら

春の歌

旗野十一郎

一、はなにかすむ、春の山、四方の眺望、長閑に。

「三人四人、遊ぶひと。」

腰の瓢、ぶら、ぶら。(唱復)

二、はれにけふる、春の野邊、何處も綾に、色めき。

「後に先に、少女ども。」

小草摘むと、ぶら、ぶら。(唱復)

端艇競漕

Allegretto. ♩ = 126.

Weber.

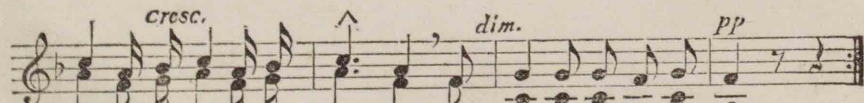


ミフカニハロトナミツーチテ
ニいるどるはたかぜいーさみ



ミツニハフ子ロフナーラベイデ
あひづのつつそれいーまかいで

五七



ヤイデヤケフコソハレナレイデヤ
やいでやかいさきそるへていでや

端艇競漕

旗野十一郎

五六

一、陸には人、波うちて。

水には艇、櫓を並べ。

『イデヤ、イデヤ。今日こそ、はれなれ、イデヤ。』(復唱)

二、色彩はた、風いさみ。

會圖の銃、それいまか。

『イデヤ、イデヤ。楫先、そろへて、イデヤ。』(復唱)

初 夏

Con grazia. ♩ = 96.

天 谷 秀

ニ ア フ バ ニ イ サ ム ハ ツ ー カ ツ ラ

ニ ま た め づ ら し き は つ ー ほ た る

ヒ ト コ エ タ カ キ ホ ト ー ト ギ ス

ヒ と も し ご る の ゆ ふ ー す す み

ナ ツ モ カ フ マ デ カ モ ー シ ロ キ

な つ も か く ま で た の ー し み の

ヨ ナ ワ ノ ハ ナ ハ タ ガ ー カ キ 子

あ る じ は と も を ま つ ー の か げ

初 夏

一、青葉あをばにいさむ、はつ松まつ魚うな。

一ひと聲こゑたかき、ほととぎす。

夏もかくまで、おもしろき。

世よをうの花はなは、誰たが垣かき根ね。』

二、まためづらしき、はつ螢ほたる。

點ひ燈ともし時ときの、夕ゆふ涼すずみ。

夏なつもかくまで、樂たのしみ涼すずみの。

あるじは朋友ともを、まつの蔭かげ。』

旗野十一郎

山居の美

Moderato, ♩=100.

Volkswiese.



一、ミ ヤ マ ノ ナ カ ニ コ コ ロ ヨ キー

二、み や ま の な か に お と の よ キー

三、ミ ヤ マ ノ ナ カ ニ ナ ガ メ ヨ キー

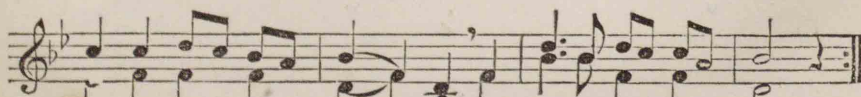


ハ ナ ノ ヘ ノ ホーカーダア

は ま つ か ぜーきーよーく たー

ハ シーラケモヲキーテム

六一



チバニーサーシイホモニーホーフ

にみづーさーびーてやのとめーぐーる

カツラーカースーメマドチヨーギール

山居の美

旗野十一郎

一、深山の中に、愉快は。

『尾上の日影、青葉にさして、庵も映ふ。』(復唱)

二、深山の中に、音の好きは。

『松風清く、溪水寂て、家外めぐる。』(復唱)

三、深山の中に、眺望好きは。

『白雲湧きて、向峰かすめ、窓を横過る。』(復唱)

姫百合

Cantabile. ♩ = 96 天谷秀

二ナ モナキー ヲサニ カ コマレー テー
ニし ろみしー ほゝに べにさしー てー

コ ノヨソー ビシキソ デノツー ユー
のぞくむー ぐらのほかけこー しー

a tempo *f*

タ レーカハソ レー トシラユリー ノー
さなーがらこれーぞみやひめーのー

f rit

カ ヲソキサ マー ヲヒメーゴコロー
なすにかくるーるひめーこーゆりー

姫百合

旗野十一郎

一、名もなき草に、かこまれて。

この世わびしき、袖の露。

誰れかはそれと、しらゆりの。

か弱きさまや。姫こゝろ。

二、白みし貌に、紅さして。

視く葎の、葉蔭ごし。

さながら是れぞ、宮姫の。

小簾に隠るゝ、姫小百合。

文部省定檢濟

明治二十四年三月五日

發行所

東京市京橋區銀座三丁目二番地

十字屋樂器店

電話新橋一二五九
振替口座東京七一五八



印刷所

成章堂

印刷者

深山一郎

發行者

倉田繁太郎

著作者

天谷秀

明	明	明	明	明	明	明	明
治	治	治	治	治	治	治	治
四	四	四	四	四	四	四	四
十	十	十	十	十	十	十	十
二	二	二	二	一	一	一	一
年	年	年	年	年	年	年	年
三	三	二	二	九	八	八	七
月	月	月	月	月	月	月	月
十	八	十	十	廿	廿	廿	廿
五	日	五	二	五	一	五	五
日	訂	日	日	日	日	日	日
四	正	三	三	再	再	發	印
版	四	版	版	版	版	版	版
發	版	發	發	發	發	發	發
行	行	行	行	行	行	行	行

定價金五拾五錢

十 字 屋 出 版 書 籍 大 販 賣 所

東京市日本橋區數寄屋町九番地
 東京市京橋區南鍛冶町一番地
 東京市京橋區南傳馬町二丁目五番地
 東京市日本橋區上橫町十番地
 東京市日本橋區本銀町二丁目八番地
 東京市神田區表神保町三番地
 東京市京橋區尾張町二丁目二十六番地
 東京市日本橋區吳服町十八番地
 東京市神田區表神保町二番地
 名古屋市本町三丁目
 名古屋市本町五丁目
 京都市三條通寺町東入ル
 大阪市東區北久寶寺町四丁目百〇六番地
 大阪市東區備後町四丁目百五十二番地
 大阪市東區南久寶寺町四丁目十九番地
 大阪市東區北久太郎町四丁目五十二番地
 鹿兒島市中ノ町
 長崎山勝山町
 甲府市柳町
 長野市大門町

林松目文太東東北中川星三十前三前中吉松柳西
 瀨野木宅川井田崎澤
 平邑黑
 星洋京海隆西松字善善善
 次孫甚
 郎吉七堂堂堂堂堂館屋助郎屋助店衛吉衛店堂
 太郎吉七堂堂堂堂堂館屋助郎屋助店衛吉衛店堂





広島大学図書

2598004949



文庫

09

949